

かわら版



「自分スタイルの楽しい農業を実践。オシャレも趣味も満喫しています」
～遠藤洋子さん～

田沢で新鮮野菜の直売所「田沢のつきじ」を営んでいる遠藤洋子さん。20年ほど前に結婚を機に岩代に移り住んだ洋子さんに、農業を始めたきっかけや野菜づくりの魅力、暮らしぶりについてお話を伺いました。

Q 農業を始めたきっかけは？

定年退職した夫の手伝いのつもりで軽い気持ちで始めました。



▲帽子、イヤリングなど作業着姿もオシャレ



▲人形のオブジェは娘さんから贈られたもの。手編みのカゴに新鮮な野菜が並ぶ

Q 野菜づくりの魅力とは？

私にとって野菜を育てることも理容師の仕事も似ていて、お客さんに喜んでもらえることが一番の励みになります。「こんなに沢山入って100円なの？」「美味しい」という声を聞くと嬉しいですね。あとは野菜の種を播き、芽が出て収穫するときにやっぱ嬉しいですね。

岩代に住む前は関東にて理容師をしていましたので、農業は初体験です。最初はミニトマトやキュウリ中心でしたが、年々作物の種類が増え、今は主に私が野菜づくりや直売所の管理を、夫が草刈り等を担当しています。

洋子さんの直売所に並ぶ
野菜は？見どころは？

野菜はもちろん、展示品にも注目！

<新鮮野菜&果物リスト>

★キュウリ ★トマト ★ナス ★インゲン
★ズッキーニ ★トウモロコシ ★カボチャ
★ネギ ★パプリカ ★ブルーベリーほか

<洋子さんおすすめレシピも紹介>

マヨネーズ+すりおろしニンニク+みその特製ディップ。もろきゅうが一段と美味です！

<看板の絵や壁の装飾も楽しい！>

洋子さんの絵に登場するネコたちは、表情が豊かで人間味あふれています。壁の装飾も手作り。季節の花も飾られています。



今では直売所もよく知られ、常連の皆さんも増加。ご近所から「うちの野菜をお店に置いて」と頼まれることもあります。

Q 生活スタイルや楽しみは？

「農業は大変な仕事」という見方が一般的ですが、私たち夫婦のモットーは、「朝はゆつくり起きて、夜は定時に仕事を終える」です。仕事あがりに新鮮な野菜でおつまみを作りながら飲むビールは最高ですね（笑）。あとは農作業をするときも自分なりにオシャレを楽しむことを心掛けています。



▲459号沿いにあり、馬ぶどうの木も生い茂る

◆取材を終えて
この日はデニムのつなぎにイヤリング、ツバ広の帽子でエレガントな装い。自分らしさを大切にしながら農業をする洋子さんは、生き生きとして素敵な女性でした。

♪キャンパー108グループに聞きました♪

～ 日山キャンプ場の魅力とは？ ～



▲広々とした敷地内には、バーベキューハウスも併設

▽3位76票／管理人さん
「管理人さんが親切！」
「3人とも面白い」「管理人さんのおじさんが素敵」「初心者にも優しい」等感動の声が多数でした。

▽2位82票／利用料金
「低料金なので連泊しても負担にならない」等の他に「利用料金は安すぎかな？」という声も。

▽1位100票／景色
「景色が最高」「星がきれい」「雲海を見たことがある」「夕陽を見てからこのとりこ」等多数。

Q 魅力は何ですか？
「日山キャンパーの生の声を知りたい」という地域おこし協力隊員と定住支援員の発案により、日山キャンプ場でアンケートを実施。108グループの声が集まりました（グループ毎に代表者1名が記入。複数回答可）。



▲混雑時以外は、車をテントに横付けできるのも魅力

□管理人さんの声は？
▼「皆さんに喜んでもらえることがいきがいです。リピーターの方も増えています」 嶋原さん
▼「日山の大自然の魅力、キャンプの楽しみを一人でも多くの人に知ってほしいです」 武藤さん
▼「初日と帰る日で、皆さん表情が変わります。日山の自然に癒されるんですね」 齋藤さん

◇過ごし方は？◇

*のんびり 83票
*BBQ（たき火） 56票
おしゃべり、登山、虫とり、温泉、薪割り…という声も



▲羽山をはじめ山並みが美しい

《集落支援員活動紹介》

8月4日、岩代支所にて二本松市岩代方部民生児童委員協議会8月定例会が開催されました。協議の中で、今後、集落支援員も民生委員とともに、高齢の方等の見守り活動として、皆さんの自宅を訪問させていただくことになりました。気軽にしゃべりをしたり、昔話等を聞かせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



岩代の秋の夜を彩る風物詩

★夜市～Yoichi～★ 開催します！

「さくらの郷」と地域おこし協力隊のコラボによる「夜市」が開催されます

*日時／9月19日（日曜）

*場所／道の駅「さくらの郷」駐車場

*開催時間／17:30～20:30

太々神楽、屋台、プチフリーマーケット等楽しい催しを予定しています。詳細は ☎68-4770(代) さくらの郷 内山まで

岩代の歴史シリーズ

「塩の道」①

「道」は人々の往来、物資の輸送・文化の伝播等になくてはならないものであり、地域の生活文化そのものともいえるべき、生きた文化財であります。

人々の生活の変化とともに、道もまた移りかわり、古い道筋は、人々の記憶から失われようとしております。「福島県歴史の道調査報告書」相馬街道（奥州西海道）「序」から抜粋

かつて、遠く相馬地方から当地小浜を経由し、二本松城下へ、また本宮へとつながる道があった。この道は会津までにも、塩、海産物、相馬焼（陶器）、鋳物、石炭、焰硝（えんしょう）等を運んでいた道筋、（※）奥州西海道、通称「塩の道」である。

本号から、福島県歴史の道調査報告書「相馬街道（奥州西海道）」や朝日新聞「塩の道を行く」を参考に、シリーズで「塩の道」をとりあげ、その歴史、周辺の文化財等をまとめてみます。ご期待ください。

※江戸時代の初めには交通路を「海道」と表記していた（東海道など）。「街道」は近代に入ってから表記である。

「海道」は江戸期の人々には一般的であったようだが、現代人にとっては特別な道に思えてならない。